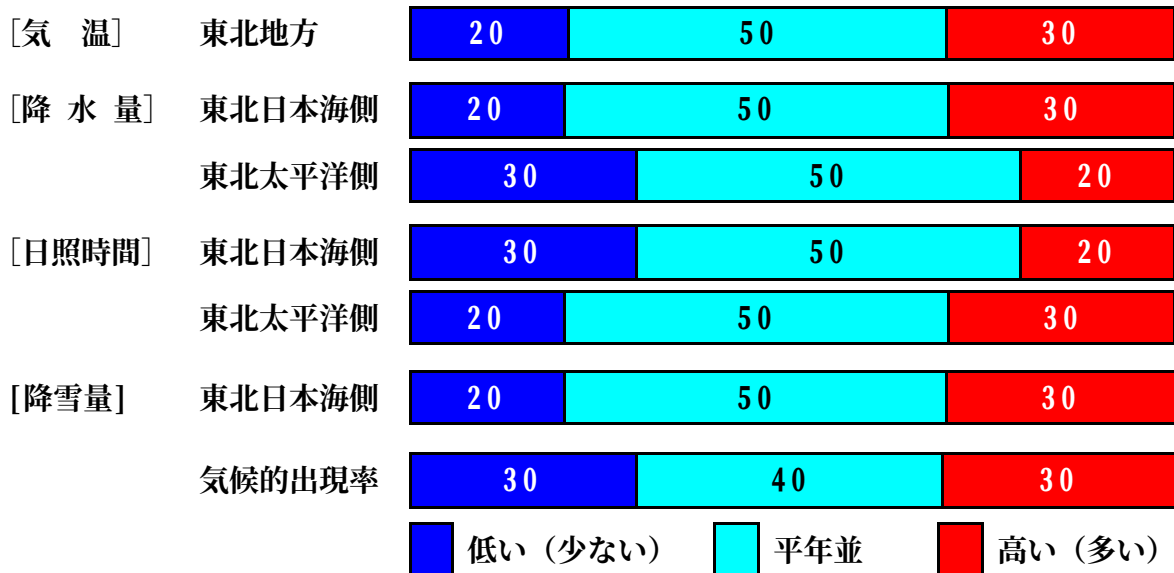


東北地方 1 か月予報の解説 (予報期間：12 月 4 日～1 月 3 日)

平成 11 年 12 月 3 日 仙台管区气象台

1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率 (%)



- [気 温]：東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は「高い」で、その確率は 30%です。「低い」の確率は 20%と小さい。
- [降 水 量]：東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は 30%です。「少ない」の確率は 20%と小さい。
 東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は 30%です。「多い」の確率は 20%と小さい。
- [日照時間]：東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は 30%です。「多い」の確率は 20%と小さい。
 東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は 30%です。「少ない」の確率は 20%と小さい。
- [降 雪 量]：東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は 30%です。「少ない」の確率は 20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

①向こう 1 か月

東北地方は、平年と同様に冬型の気圧配置となる見込みです。寒気の入る時期と冬型のゆるむ時期があるでしょう。このため、平年と同様に東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

この期間の平均気温は平年並の見込みです。また、東北日本海側の降雪量は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 7 日、東北太平洋側で約 19 日です。

②各予報期間の天候の特徴

1 週目……………

(12 月 4 日～12 月 10 日)

向こう 1 週間は、期間の初めは気圧の谷の影響で、天気にくずれ
る所があるでしょう。その後は冬型の気圧配置になりやすく、東北
日本海側では雪か雨の降る日が多い見込みです。東北太平洋側では
概ね晴れるでしょう。なお、詳細は週間天気予報を参照して下さい。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 2 日、東北太平洋側で約 4 日です。

2 週目……………

(12 月 11 日～12 月 17 日)

冬型の気圧配置となるでしょう。平年同様、東北日本海側は曇り
や雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 1 日、東北太平洋側で約 4 日です。

3～4 週目……………

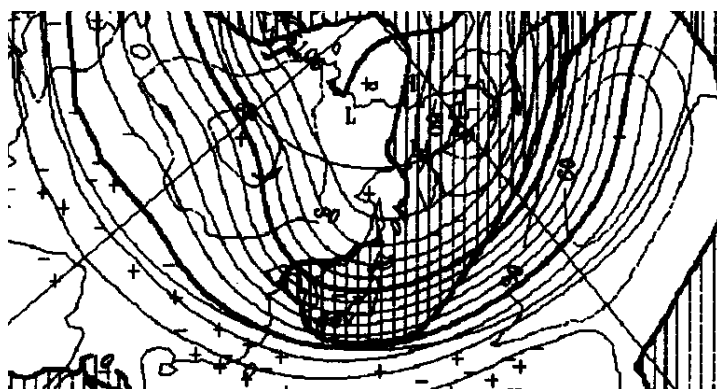
(12 月 18 日～12 月 31 日)

冬型の気圧配置となるでしょう。平年同様、東北日本海側は曇り
や雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 3 日、東北太平洋側で約 9 日です。

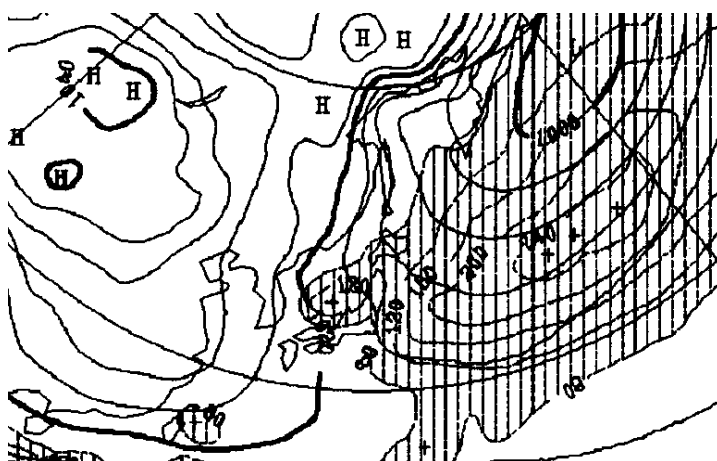
③予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は弱い
負偏差に覆われており、90°E 付近
のリッジが明瞭なため、冬型の気圧
配置となりやすい。2 週目（図略）
は、90°E 付近のリッジが月平均に
比べ弱まる。3 週目以降（図略）は、
日本付近は月平均と同様に弱い負偏
差に覆われる。



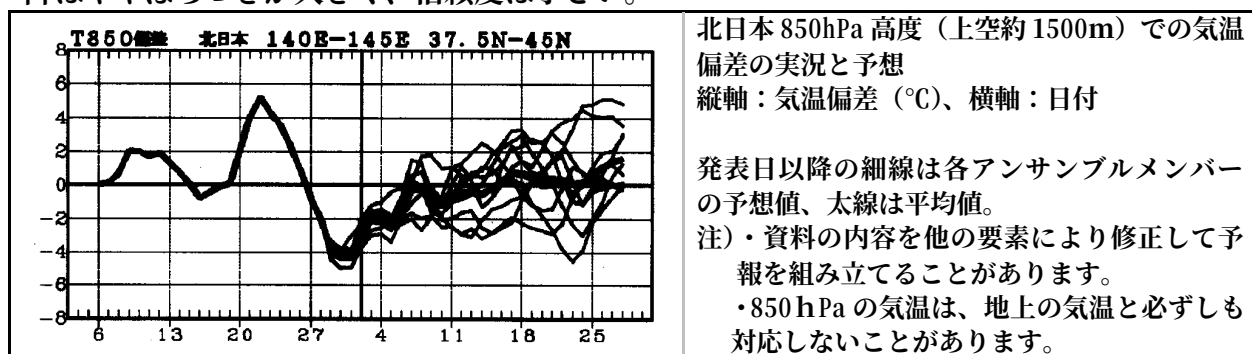
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均でみると、大陸から日本付近
に高気圧が張り出し、ベーリング海方
面には低気圧があって、日本付近は冬
型の気圧配置となっている。これに伴
う降水域は日本海中部に中心を持つ。
また、日本の東海上にもまとまった降
水域が広がる。2 週目以降（図略）も
平年同様、冬型の気圧配置が予想され
る。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温偏差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1 週目は平年を下回るが、2 週目以降ほぼ平年並で推移し、強い寒気の流入は予想されていない。ただ、2 週目以降はややばらつきが大きく、信頼度は小さい。

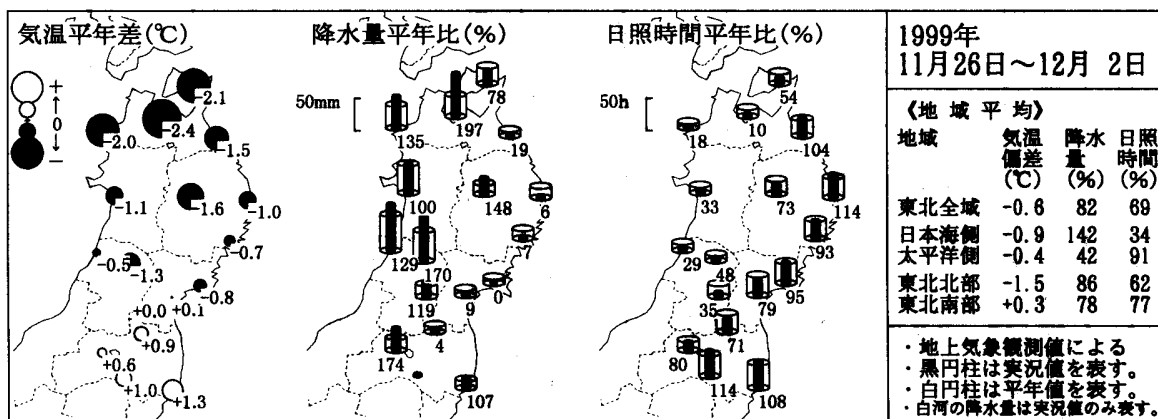


注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近 1 週間（11 月 26 日～12 月 2 日）の天候の経過

この期間、東北地方は冬型の気圧配置となった。東北日本海側では雪や雨の日が続いた。日最深積雪は、深浦で 15cm（28 日、11 月として歴代 1 位）、青森で 31cm（29 日）、盛岡で 15cm（29 日）、新庄で 14cm（29 日）などであった。一方太平洋側では、概ね晴れたが、28 日には仙台、29 日には石巻で初雪を観測した。12 月 2 日には前線の通過に伴い各地で雨や雪となった。

平均気温は、東北北部を中心に平年を下回ったが、東北南部では平年並を上回ったところもあった。降水量は、東北日本海側で平年比 142%と平年を上回った。東北太平洋側では平年比 42%と平年を下回った。日照時間は、東北日本海側で平年比 34%、東北太平洋側で平年比 91%と平年を下回った。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）